

(1) 総合

昭和17年1月7日第3種郵便物認可

発行所 徳島市中徳島町2丁目5番地2 (〒770-8572)  
徳島新聞社  
電話(088)655-7373  
©徳島新聞社 2018

2018年(平成30年)

1月22日  
月曜日

徳島市内にバイオマス発電所

## 県内3社 計画引き継ぎ

### 国内最大級 都内ベンチャーと共同で

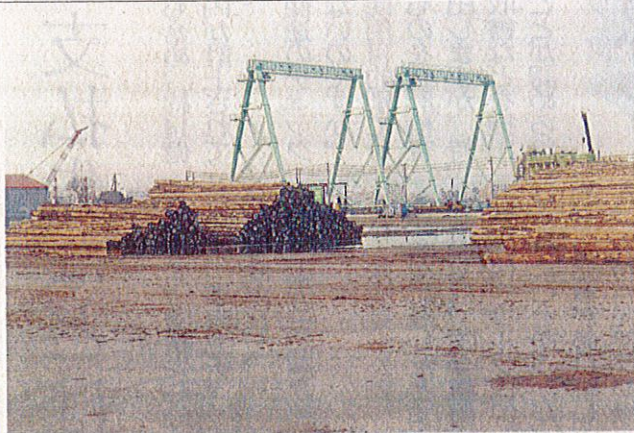
ソフトバンクグループのSBエナジー(東京)が断念した徳島市津田海岸町での木質バイオマス発電所の建設計画を、県内3社と都内ベンチャーの共同事業体が引き継ぐことが

決まった。SBエナジーが策定した計画や地元との合意事項を受け継ぐことにしており、国内最大級となるバイオマス発電事業が再び動き出す。



の撤退が決まった後、同社の計画実現に協力してきたゲンボクと大

加する。昨秋、SBエナジーの撤退が決まった後、同社の計画実現に協力してきたゲンボクと大



県内3社と都内のベンチャーが建設する木質バイオマス発電所の予定地—徳島市津田海岸町

共同事業体には、木利木材が計画を引き継ぐ意向を示し、共に取り組む企業の選定を進めていた。ゲンボクによると、外資系企業を含む10社ほどが手を挙げたが、木質バイオマス発電事業の実績があり、雇用や施工業者の選定などで地元を優先する考えを示したレノバを選んだ。

レノバは2000年に設立され、太陽光、風力、木質バイオマス、地熱と幅広く発電事業を手掛けている。木質バイオマスは発電施設1基を、他社との共同出資で16年に秋田市で稼働させており、レノバ単独では宮城県、仙台市と石巻市、静岡県御前崎市の3カ所で建設計画を進

める。17年に東証マザーズに上場し、18年中の東証1部への上場変更を目指している。徳島市津田海岸町での計画は県木材団地東部の県有地6万4千平方メートルを借り、国内最大級となる75分の出力規模の施設を建設する。事業費は未定。秋田市の施設は出力20分で125億円だった。

県は共同事業体からの占用許可申請を待つて県有地を貸すかどうかを判断する。ゲンボクの岡田育大社長は「港湾地域の活性化につながる、公益性がある」と話した。

4社は、共同事業体で事業を進めるとする通知を22日までに、地元約7300戸に送る。着工時期は未定で、発電開始は20年度以降になる見通し。

(久保高茂)